

最近の本学の取組等について

2019.3 ~ 2019.6

学内行事

1. 平成30年度学位記授与式
2. 2019年度入学式
3. 2019年度第1回オープンキャンパス

受章

4. ベンチャープロジェクト「デフォガ」が未来2019を受賞
5. 平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰について
6. アメリカ化学会National Awardsを受賞
7. 2018年度高分子科学功績賞を受賞
8. 2019年春の叙勲について

学生

9. 将棋部 令和元年中部学生将棋春季個人戦 優勝
10. 柔道部 第66回東海学生柔道夏季優勝大会 5人制の部 準優勝

新聞報道等

11. 本学に係る最近の新聞報道について

3. 2019年度第1回オープンキャンパス

日 程：6月8日（土）

参加者総数：697名（内訳：高校生等504名，保護者等193名）

《プログラム》

【学科・課程紹介】創造工学教育課程

課程説明会・先輩たちとの座談会 午前の部 10:10～11:30
午後部 13:30～14:50

【研究室見学】高度工学教育課程

午前の部 10:10～11:30 午後部 13:30～14:50

【特別講演会】 12:30～13:10

「名古屋工業大学の学科選び」学長特別補佐 高木 繁 教授

【保護者のための講演会】 13:50～14:40

「名古屋工業大学のキャリア・サポートシステム」

キャリアサポート・オフィス長 山下 啓司 教授



創造工学教育課程説明会



特別講演会



保護者のための講演会

4. ベンチャープロジェクト「デフォガ」が 未来2019を受賞

受賞

(1/2ページ)

○受賞団体

(プロジェクトメンバー)

しくみ領域 准教授 石井 大祐

生命・物質工学科 石井研究室 桑田 力真

社会工学専攻 徳丸研究室 倉田 颯

産学官金連携機構 コーディネータ 佐藤 久美

産学官金連携機構 コーディネータ 野原 かほり

○受賞の対象

部門別最優秀賞：「革新素材・エネルギー・その他部門」

企業賞：「三井化学 材料×情報による価値創造賞」

○未来2019とは

Incubation&Innovation Initiative が主催する、社会にインパクトを与える
ビジネスの創造・成長をサポートするインキュベーションプログラムである。

○受賞内容

本プロジェクトでは、フナ虫の脚部構造を生体模倣し、対象物に加工することで、対象物の表面の水を極めて「迅速」に「無動力」で移動させることができる技術の事業化を目指している。

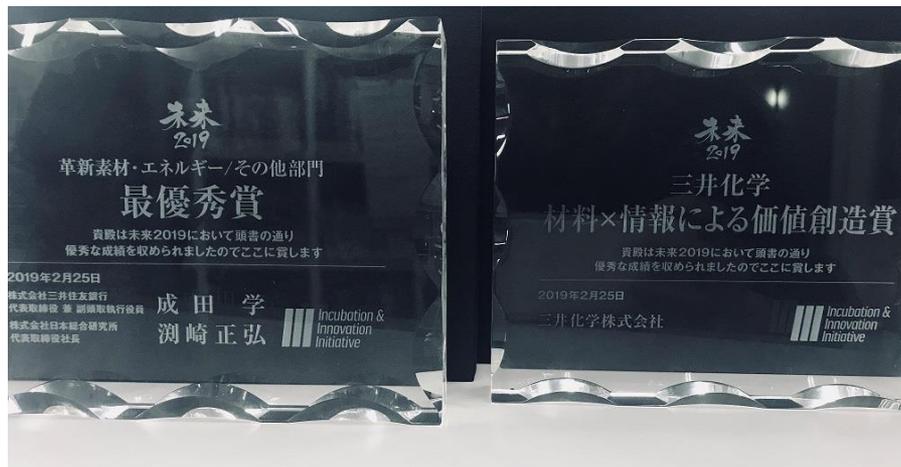
デフォガでは事業会社との共同開発による特許取得を軸に、水が創出する界面を未知の領域へ広げることで様々な課題解決に対しアプローチする。

○今後の抱負

まさかこのように賞をいただけるとは思わず
驚きましたが、多くの方の力をお借りし受賞に繋がりました。

この技術がより豊かな社会の実現に繋がり、大きな産業になることを目指し、体制を整えながらスピード感をもって事業化を進めてまいります。

応援よろしくお願ひします！



5. 平成31年度科学技術分野の

文部科学大臣表彰について

【開発部門】

受賞者：岩崎 誠 教授

受賞の対象：産業機器の位置決め機構に対する高速高精度制御技術
の開発

【研究部門】

受賞者：種村 眞幸 教授

受賞の対象：ナノカーボンの環境に優しい合成と実用化に関する研究

【理解増進部門】

受賞者：井戸田 秀樹 教授、川端 寛文 客員教授、
花井 勉 (株)えびす建築研究所 代表取締役

受賞の対象：木造住宅の耐震化促進に向けた安価な改修技術の普及啓発

○表彰式

2019年4月17日（水） 12時10分～

6. アメリカ化学会National Awardsを受賞

受賞者：柴田 哲男 教授

受賞名：ACS Award for Creative Work in Fluorine Chemistry

【受賞の内容】

- ・同賞はフッ素化学分野において卓越した業績を挙げた研究者に贈られるもの。
- ・柴田教授の研究は、有機フッ素化学分野の発展に寄与し、とりわけ不斉フッ素化、不斉トリフルオロメチル化をはじめとした、フッ素化合物の不斉合成研究やフッ素化合物の合成に必用な新しい試薬開発研究が高く評価された。



7. 2018年度高分子科学功績賞を受賞

受賞者 : 栗山 晃 特任教授 (接着・接合研究所)

受賞名 : 2018年度高分子科学功績賞

受賞対象: オキセタン樹脂の開発と実用化

【受賞の内容】

栗山特任教授は、世界で初めて光硬化型オキセタン樹脂の製品化に成功するなど、いくつもの高機能高分子材料を世に送り出し、これらの研究開発を通じて機能性高分子材料分野の発展に大きく貢献した。

8. 2019年春の叙勲について

【瑞宝中綬章】

受章者：早原 悦朗名誉教授

功労概要：教育研究功労

<参考> 勲章別受章者数内訳（カッコ内の数字は、女性の受章者数で内数。）

	旭日章	瑞宝章	合計
大綬章	8 (0)	1 (0)	10 (0)
重光章	15 (0)	37 (2)	52 (2)
中綬章	48 (0)	308 (6)	356 (6)
小綬章	205 (4)	701 (5)	906 (9)
双光章	517 (28)	1,056 (140)	1,573 (168)
単光章	198 (10)	1,130 (206)	1,328 (216)
合計	991 (42)	3,233 (359)	4,225 (401)

内閣府HPより抜粋

9. 将棋部 令和元年中部学生将棋春季個人戦 優勝

大会名：令和元年中部学生将棋春季個人戦

入賞者：将棋部 竹川 和(第一部工学部 電気・機械工学科4年)

成績：優勝(105名出場)

- ・ 今後は全国大会である学生名人戦に出場

【竹川 和さんのコメント】

今回は、優勝に焦点を当てて調整に取り組んできました。出場者の中では経験で優っているので、対局までの取り組み方や対局中の意識の置き方などに気をつけました。対戦相手のリサーチと、考えられる戦型に予想を立てて序盤で時間を使わずに慎重に指すことを事前準備で行えたのが大きかったと思います。結果も内容も個人的には満足出来るものとなったので、気持ちは充実しています。

学生名人戦は今回で最後の出場となるので、目標とする優勝まで自分ができることを積み重ねていきたいと思います。



10. 柔道部 第66回東海学生柔道夏季優勝大会

学生

5人制の部 準優勝

大会概要：令和元年5月19日(日)に愛知県武道館で開催された第66回東海学生柔道夏季優勝大会に柔道部が出場し、5人制の部で準優勝した。本大会は5人制の部と7人制の部に分かれており、5人制の部では総当たりのリーグ戦を勝ち上がったチーム同士で決勝戦を行う形式になっている。本学柔道部は、最初のリーグ戦で米田柔整専門学校、中部大学、愛知工業大学に見事全勝し、決勝戦は近畿大学工業高等専門学校と内容差(勝利本数が同じ場合の判定)にまでもつれこむ接戦を繰り広げた。また、各入賞校から1名ずつ選出される優秀選手賞を、情報工学科3年の八野田響さんが受賞した。



【出場選手】

野崎 拓実	生命・応用化学科 3年
	(主将)
兪 能銘	社会工学科 4年
杉江 一鷹	社会工学科 3年
八野田 響	情報工学科 3年
舟橋 和哉	情報工学科 3年
堀 聡真	生命・応用化科 1年

1 1. 本学に係る最近の新聞報道について

○多次元データ解析「テンソル処理」の最先端について

2019年3月19日（火）の中日新聞の「研究現場発」の紙面において、本学の横田達也助教が掲載され、多次元データ解析「テンソル処理」のための新しいモデリング手法の提案等の研究内容が紹介された。
なお、横田達也助教は昨年度、「IEEE Signal Processing Society Japan Young Author Best Paper Award」を受賞した。

○可視光応答性酸化チタン光触媒の開発について

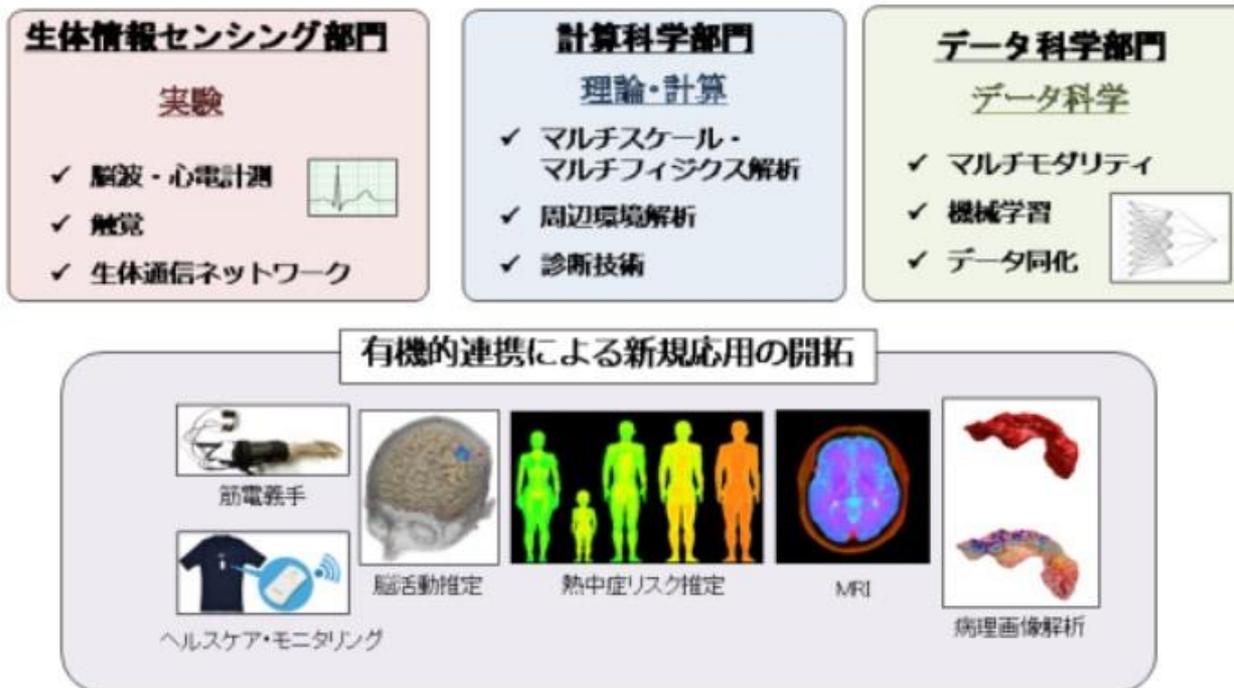
2019年3月29日（金）の日刊工業新聞において、本学の白井孝准教授らが、可視光応答性酸化チタン光触媒の短時間合成技術を開発したことが報道された。

○遠隔操作ロボットの開発について

2019年3月22日（金）の日刊工業新聞において、本学が進める遠隔操作ロボットの開発が最終段階に入り、災害現場での情報収集や救助活動、遠隔診療などでの活用を目指し、2020年度にシステムを構築し実用化につなげることが報道された。

○先端医用物理・情報工学研究センターを開設

2019年4月1日（月）の中日新聞において、計測や計算技術などの教員13人がメンバーとなり、国内外の工学系の大学や研究機関と連携し、医療や公衆衛生に関する新しいシステム開発を目指す「先端医用物理・情報工学研究センター」を開設したことが報道された。



○人中心の効率的マネジメントサイクルの実現について

2019年4月16日（火）の中部経済新聞の「研究現場発」の紙面において、本学の川村大伸准教授が掲載され、データ解析に人の知見を取り込む等の研究内容が紹介された。なお、川村准教授は関連の研究成果により国際学会で「Best Paper Award」を受賞している。

○日本製鉄が最新技術を盛り込んだ大規模な4階建て集合住宅を建設

2019年4月22日（月）の鉄鋼新聞において、日本製鉄は、国内初の大規模4階建ての工事を建設中であり、4階建ての構造評定の取得に際して、本学の小野徹郎名誉教授と佐藤篤司准教授の協力のもと、NSハイパーツ株式会社と共同で、構造面材に鋼板を用いた「高強度耐力壁」を開発したことが報道された。

○「ロボット・IoT・サイバーセキュリティ専門人材育成講座」開講

2019年4月26日（金）の中部経済新聞等において、名古屋市と本学の産学官連携機構が連携し、高い専門性と実践的な問題解決力を兼ね備えた人材を育成を目的として、ロボット専門育成人材講座（全8回）を6月より開講することが報道された。

○木造住宅 安価に耐震改修

2019年5月14日（火）の朝日新聞の「研究室から」の紙面において、本学の井戸田秀樹教授が掲載された。工期を大幅に縮め、費用も従来の半分程度でできる木造住宅の耐震改修工法を研究してきた。安価な新工法では、時間も費用も大幅に抑えられ、早ければ数週間で工事が終わる。この新工法の普及を2013年度から行っている。

○熱誘起ラジカルを利用したVOC分解触媒について

2019年5月21日（火）の中部経済新聞の「研究現場発」の紙面において、本学の白井孝准教授が掲載され、安価なHAPで環境浄化に取り組む等の研究内容が紹介された。